

第二十九師団通信隊（雷第三二九五部隊）

年 月 日	略 歴
昭和 一六 六	軍令により第二九師団通信隊編成下令
一六 七 二二	編成完結（名古屋）
	爾後滿洲遼陽に駐留附近の警備
一九 二 一九	南方派遣のため動員下令遼陽出發
二 二 〇	鮮滿国境通過同日釜山着
二 二 三	釜山港出帆
二 二 四	宇品港寄港
二 二 六	宇品港出帆
三 四	マリヤナ諸島グワム島上陸（師団通信の一部ロタ島、テナヤン島に上陸）
	爾後グワム島において通信業務に従事
六 一 一	米軍の空爆撃開始
七 二 二	米軍上陸
	以後米軍との間に熾烈なる戦闘展開

二〇
九 八 九
二 一 三
五 〇

最後の総攻撃を敢行し全員玉砕
停戦
終戦

(注) 同島に於ける戦闘間負傷等により米軍の俘虏となつた者及び少数の生存者は終戦後米軍により各個に復員する。

		至自 至自				昭和一六		年 月 日	略 歴	歩兵第十八連隊（雷第三二一九部隊）	
一九二二	一九二七	一九二七	一九二七	一九二七	一九二七	一九二七	一九二七				
二一七	二二二	九二五	九三三	七四〇	七四〇	九三三	八一	七二五	七二三	七二三	
朝鮮釜山着、同日釜山港出帆		南方派遣のため奉天省海城出帆		以後遼陽附近の警備		満洲奉天省海城着		中支、黄陂出帆		京漢沿線地区掃蕩作戦参加	
										第一次長洲作戦に参加並に信陽附近の警備	
										碓山作戦に参加	
										中支漢国に上陸、黄陂に駐留	
										大阪港出帆	
										歩兵第十八連隊編成完結（名古屋）	
										軍令により歩兵第十八連隊編成下令	

二二六	字品港出帆（輸送船崎戸丸に乗船サイパン島に向う）
二二九	米軍の魚雷攻撃をうけ崎戸丸沈没、護衛艦（岩波、朝夕）に球助さる
三七	サイパン島に上陸、同島の警備
五二七	サンパン島出発、グワム島に上陸
六一一	米軍の砲撃が開始
七二二	米軍上陸
七二〇	爾後米軍を邀撃しつゝ最後の総攻撃を敢行し玉砕す。

（注） 戦傷病者及ジャングル作戦に入ったものは20・11頃迄に米軍の收容所に入り、爾後各個に復員する。

野砲兵第一連隊第三大隊（玉第五九二〇部隊）	
年 月 日	略 歴
昭和 一六 七 七 一六	軍令により野砲兵第一連隊第三大隊編成下令 編成完結（東京）
一九 二 二 三	爾後満洲国黒河省孫呉満洲第五一四部隊に編入ソ満国境警備に任ず 動員下令編成完結
二 二 五	中部大平洋方面派遣のため孫呉出
二 二 九	満鮮国境安東通過
三 三	釜山港出帆
三 一 二	東京港内に船団集結
三 一 二	横浜港出帆
三 二 一	大官島（グワム島）上陸 以後同島の警備
六 一 一	米軍の空襲始まる。連日空襲艦砲射撃等熾烈を極める
七 二 二	米軍上陸

七三〇

以後米軍を遊撃しつつ最後の総攻撃を敢行し部隊は玉砕す

(注) 終戦後戦傷者並に少数の生存者は米軍収容所に入り原後各個に復員する

独立守備歩兵第十四大隊（昭第一二九〇〇部隊）

年 月 日	略 歴
昭和一九四四	独立守備歩兵第十四大隊動員下令
四四	編成完結（満洲、孫呉）
四七	孫呉出発
四四	満鮮国境通過同日釜山着
四四	釜山港出帆
四五	神戸、横浜、芝浦寄港、船団編成
五五	館山港出帆
五七	「グアム」島西北方約一七〇哩沖において漁雷攻撃を受ける
五一	南洋群島「サイパン」島上陸
一九	同日より同島守備
七八	「サイパン」島において玉砕

（注）サイパン島における戦闘間負傷等により米軍の俘虏となつた者及少数の生存者は終戦後米軍により各個に復員した。

歩兵第百五十連隊（柏第四五四六部隊）

年 月 日	略 歴
昭和一六 四 七	歩兵第百五十連隊編成完結（松本市） 爾後松本に駐屯
一八 九 二	第五二師団動員下令（歩兵第一五〇連隊同）
九 一 三	動員完結
一〇 二 〇	昭和十八年軍令陸甲第九五号により編成改正下令
一一 一 五	編成改正完結
一二 一 九	第一次輸送として屯営（松本）を出発
一三 一 四	宇品港出発
一三 二 五	佐伯港（寄港）出発
一九 一 一 六	南洋群島トラツク島上陸同日より同島警備
一一 二 二	第二次輸送隊として松本を出発
一一 二 七	宇品港出帆
一一 二 九	門司港（寄港）出帆

要塞建築勤務第五中隊（曆第二七七三部隊）

年 月 日	略 歴
昭和一九三三 三 四	軍令により要塞建築勤務第五中隊編成下令 編成完結（都城）
七 四	都城出發
七 二九	横浜港出帆
八 二	小笠原諸島父島二見港に上陸
八 二二	父島出發
八 二三	硫黄島に上陸
二〇 二一六	爾後同島において要塞建築作業に従事
二一九	米軍の空爆及艦砲射撃により陣地は殆んど破壊された 米軍同島に上陸開始
三 一七	以後これを邀撃して熾烈なる戦闘を展開す 我が軍は最後の総攻撃を敢行玉砕す少数の生存残留者は東海岸附近のゲリラ戦に参 加後米軍の捕虜となり終戦後各個に復員した

混成第一旅団工兵隊（膳第一八三一三部隊）

年 月 日	略 歴
昭和一九六三〇 同日	軍令陸甲第五十八号により混成第一旅団工兵隊臨時編成下令 編成完結（小笠原諸島、父島）
一九七	硫黄島進出後陣地の構築並に防空勤務に任じた。（一部梯団は父島に残留し父島の警備陣地構築に従事）
二〇二一九	米軍硫黄島に上陸以来日夜熾烈なる砲撃下よく奮闘したるも損耗日に増し遂に斬込の止むなぐに至る
三一七	全員玉砕す
八一五	停戦
九二二	終戦

（注）硫黄島における戦闘間負傷及び少数の生存者は米軍に収容され終戦後米軍により各個に復員した。

年 月 日	略 歴
昭和一五 三 一	横浜憲兵隊父島憲兵分隊として創立
一九 三 一	小笠原諸島戦地指定と同時に戦地部隊となる
一九 七 一	横浜憲兵隊の隷下を離れ第九師団配属憲兵隊となる
二〇 八 一五	爾後小笠原諸島防衛作戦に参加
九 二	停戦
二 四 一五	終戦
四 二 〇	内地帰還のため父島二見港出帆 復員完結

父島憲兵分隊（膳第一七五〇二部隊）

年 月 日		略 歴
昭和一九六		独立速射砲第十一大隊（曆第七一七七部隊） 軍令により独立速射砲第十二大隊編成下令 編成完結（島根県浜田市西部第三部隊） 横須賀港出帆 小笠原諸島父島上陸 爾後同島の警備 米軍同島に上陸彼我の間に激戦が展開された 最後の総攻撃を敢行玉砕 停戦
一九六三		
一九七一		
七四		
二〇一九		
三一七		（注）この戦闘間負傷者及び少数の生存者は米軍の俘虏となり終戦後米軍により 各個に復員した。
八一五		

第二九師団経理勤務隊（雷第三二九九部隊）

年 月 日	略 歴
昭和一九一 一 一五	第二九師団経理勤務隊動員下令（遼陽） 編成完結（釜山）
同日	釜山港出帆
一 二 〇	グアム島上陸
七 九	原後米軍が上陸作戦開始時まで、師団隷下部隊の糧秣、被服の補給、施設の補修、農場、被服工場の経営に従事
七 二 二	米軍グアム島へ来襲交戦状態に入る
七 三 〇	米軍上陸
八 九	部隊玉砕
八 一 五	各部隊生存者は師団高級参謀陸軍中佐武田英之の指揮下に入り長期ゲリラ戦に入る
九 二	停戦
一 〇 一 五	終戦 米軍捕虜収容所入所（グアム島） （注）終戦後米軍により各個に復員する。

独立混成第五十旅団司令部（備第一七五五四部隊）

年月日	略歴
昭和一八二二二五	南洋第五支隊編成完結（歩兵第一四一連隊補充隊に於て）編成要員一、九〇〇名
一九一五	宇品港出帆
一一一	途中九州沖ニテ敵潜水艦ノタメ遭難（戦死一〇〇名、患者三〇〇名）
一一五	再編成ノタメ小倉市に集結四国師管（高松、高知）より補充を受け
二五	再編成完結
二二八	門司港出帆
三二	釜山港着、同港に於いて南方第七派遣隊（満洲東安に於て編成さる部隊にして歩兵二大隊、野砲一大隊工兵、高射砲各一中隊の兵力一、四〇〇名）と乗船
三五	釜山港出帆
三一七	高雄港寄港
三二八	パラオ寄港
四二	サイパン島寄港
四一四	メロン島上陸、爾後対空戦、陣地構築に従事

六	六	独立混成第五十旅団司令部編成下令
九	六	編成完結（南洋第五支隊、第七派遣隊及第三十一軍より野戦隊要員補充）
		七月上旬サイパン失陥後は現地自活に恵念せるも食糧不足に依り風土病、伝染病、脚気栄養失調等の為め部隊の大部消耗せり
二	八	停戦
二	九	終戦
〇	九	内地帰還のため「メレヨン」島出発
五	九	別府港に上陸
七	一〇	復員完結